

合唱コンクール続報～結果と講評～

前号第18号で合唱コンクールの概要をお伝えしましたが、第17号の宿題である表彰された人々の報告で紙面が終わり、結果についてお知らせすることができませんでした。そこで、今19号でも前号に続き合唱コンクールについてお知らせいたします。なお、合唱コンクールの講評も添えさせていただきます。

【学級の成績】

学年	金賞	銀賞	銅賞
1年	1組	4組	3組
2年	1組	4組	
3年	1組	4組	3組

【個人の成績】

※敬称略（数字）：組
特別賞：課題曲自由曲の両方を担当した伴奏者・指揮者が対象

学年	最優秀指揮者賞	最優秀伴奏者賞	特別賞
1年	竹島羽奏 (2)	佐藤七海 (4)	遠藤夏菜 (4)
2年	一木重瑠都 (1)	窪寺暁菜 (1)	窪寺暁菜 (1) 服部瑠泉 (2) 今泉那月 (2)
3年	堀米創太 (4)	大西百々子 (5)	堀米創太 (4) 竹島彩水 (1) 古川凜 (2) 山口愛 (3) 大西百々子 (5)

【合唱コンクール講評】

みなさんお疲れ様でした。私に与えられた役割は講評を行うことですが、素人の私には荷が重すぎます。できるのは、せいぜい感想を申し上げることくらいですので、どうかそれでお許しください。

今年は、相生中の合唱コンクールが大きく変わった年でした。全学年の課題曲をがらっと変更し、昨年度歌われていた曲を自由曲の選択枝からはずしたからです。大きな挑戦でした。冒険でした。その方針を会議で決定したとき、うまくいくのだろうか、心配していました。しかし、みなさんの歌声がその不安を吹き払ってくれたのです。きょう、みなさんは、昨年に勝るとも劣らない見事な合唱を聴かせてくれました。そのことにまず御礼を申し上げます。この1カ月間、みんなよく頑張りました。こんなに素晴らしい合唱コンクールにしてくれてありがとう。そんなみなさんと、みなさんを指導してくださった先生方を私は誇りに思います。

さて、「合唱魂（こん）」すなわち「真心の合唱」について私なりの結論を申し上げます。それは、「喜び」という、とても簡単な結論です。

先ほどステージに立っていたとき、もしかすると、みなさんは、緊張しているとか、優勝したいといったことをつかの間忘れていたのではないのでしょうか。

もちろん、みなさんが1カ月間、来る日も来る日も頑張ることができたのは、優勝という目標があればこそということはいくらも分かってはいるつもりです。でも、みなさんが繰り返し同じ曲を歌うことができたのは、はたしてそれだけが理由でしょうか

そこには、練習するたびに美しさと力強さが増していくことに対する喜びがなかったのでしょうか？あるいは、クラスのみんなで心を合わせ、美しい声を響かせることが、他の何物にも代えがたい、途方もなく尊いものだという実感はなかったのでしょうか？

今日の見事な合唱にまでみなさんを導いたのは、歌う人や聴く人に喜びを与え、心を一つにする合唱の力があつたからではないかと私は思うのです。だからこそ、みなさんは、大勢の人の前で歌う緊張とか、是非とも優勝したいとかといった雑念から解放され、ただ純粹に美しい合唱を歌える「喜び」、そしてそれを聴いてもらえる「喜び」に浸（ひた）ることができたのではないのでしょうか。それこそが「真心の合唱」である「合唱魂」の正体ではないかと、みなさんの合唱を聴きながら私は思いました。

その「合唱の魂」をどの学年、どの学級の発表にも感じることができました。私も審査員の一人であり、既に審査も済ませてしまつたのですが、とっても乱暴なことを言わせてもらえば、私の中ではすべての学年、すべての学級が優勝です。

ご来賓の皆様、保護者の皆様、長時間にわたってご覧いただきまして誠にありがとうございました。相生中の合唱コンクールはいかがでしたでしょうか？

コンクールである以上、この後、学級、指揮者、ピアニストに順位がついてしまうわけですが、入賞してもしなくても、どうぞ、おうちに帰ってから今日は、お子さんを思いっきり褒めてあげてください。この1カ月、お子さんたちは、全員が賞賛に値する努力を積み重ねてきたからです。

少し話が長くなりました。みなさん順位が気になってそれどころではないでしょう。これで私の講評という名の感想発表を終わりにします。

文中の「真心の合唱」とは、寺島がスローガンの中で感銘を受けた結びの言葉「合唱魂」の本質を「真心」と解釈したことを指します。更に「真心」の内容の解明を、実際の合唱を聴きながら行おうと考え、合唱コンクール始まりの挨拶でお伝えしておいたことを表します。

全国学力・学習状況調査の結果

日本全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果をお伝えいたします。中学校では学力調査として国語AとB、数学AとBが、そして、学習状況調査として質問紙調査が行われました。Aは基礎的な知識を問う問題であり、Bは知識の活用を問う問題です。

今回の調査は3年生を対象とした調査であり、結果のすべてが1・2年生に当てはまるわけではありませんが、学校としての傾向を知るといえる点では、1・2年生の保護者の皆様、生徒のみなさんにも参考にしていただければと思います。また、直接の対象である3年生については、既に結果の分析をもとにした指導を行っています。特に学習状況調査は4月の時点での調査ですので、勉強時間の不足などは、学校全体の課題としてとらえ、改善に向けての取組が始まっていますので、ご承知おきください。また、およそ半年後に同じ調査を受ける2年生に生活改善の参考として役立ていただければありがたいと考えています。なお、ご存じかと思いますが、当調査の具体的な数字につきまして、桐生市では非公表となっておりますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

さて、調査の結果ですが、平均正答率で見ると、国語A・B、数学A・Bともに今年度の相生中は、わずかに全国に届きませんでした。B問題では、国語、数学ともに全国との差はわずかなものでした。両教科ともA問題のほうが数字の開きが(B問題に比べて)大きくなっており、基礎・基本の知識の重要性が改めて浮き彫りになってきました。

【教科別の調査結果から】

- 国語のA問題では、課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる問題や、詩の表現について自分の考えをもつ問題がよくできていました。いっぽう、話し言葉と書き言葉の違いを理解しているかどうかを確かめる問題や、慣用句の問題(「えり」をただすを言い当てる)、『徒然草』の種類(随筆)を言い当てる問題に課題がありました。
- 国語Bでは、読むことを中心として全体的によくできていました。課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる問題では全国平均を上回っていました。しかしながら、話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する問題で全国を大きく下回り、結果として国語Bの正答率全体を下げる原因となってしまいました。
- 数学Aでは、目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、資料の傾向を読み取る問題で全国を大きく上回りました。反対に、与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取る問題や連立二元一次方程式、錯覚の意味の問題に課題が見つかりました。
- 数学Bでは図形の移動の問題や資料から必要な情報を読み取る問題がよくできていました。一次関数の問題で課題が見つかりました。

【学習状況調査から】

- 難しいことでも失敗を恐れず挑戦する生徒が多いこと、自分によいところがあると肯定的に自分を見ている生徒が多いこと、友達の前で自分の考えや意見を発表することを得意としている生徒が多いこと、携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている生徒が多いこと、学校に行くのが楽しいと感じている生徒が多いことが分かります。また、学校の規則を守っている生徒や困っている人を進んで助けている生徒の数も全国より多いことが分かり、うれしくなりました。
- 課題のいくつかをご紹介します。残念ながら、平日、休日ともに家で勉強する時間が全国を大きく下回っていることが分かりました。勉強していると回答した生徒でも、1時間未満の生徒が数多くいました。家庭学習の充実こそが本校最大の課題と考えています。また、地域行事への参加も全国との差が大きくなった問題でした。部活動と重なり、参加できないことが多いため、いたしかたない部分はあるかと思いますが、日程の調整を行いながら無理のない範囲で参加を促すなど、地域の行事等への積極的な関わり方が今後の課題になってくるかと考えています。